

会員各位

静岡県言語聴覚士会 会長 泉 千花子
研修局 全体研修部 金子・鈴木

2021年度 静岡県言語聴覚士会講演会のご案内

拝啓 時下、皆様におかれましては、ますますご清栄のことと、お慶び申し上げます。

この度、2021年度静岡県言語聴覚士会講演会を、総会と同日に開催いたします。詳細は、下記の通りです。講演会へのお申し込みは、google フォームに必要事項をご記入の上、送信してください。

本講演会は、県士会会員以外のSTおよび関連職種の方も対象としております。職場・関連機関の方へも、ご案内いただきたく、お願い申し上げます。

多くの皆様のご参加を、お待ちしております。

敬具

記

【日時】2021年6月13日（日） 9:35 講演1 入室開始

9:50～11:50 講演1 「きこえているのにわからないAPD[聴覚情報処理障害]の理解と支援」

国際医療福祉大学 成田保健医療学部 言語聴覚学科 教授 小渕千絵 先生

11:50～12:50 昼食休憩

12:50～13:50 県士会総会（非会員の方は入室できません）

14:00～14:15 講演2 入室開始

14:15～16:15 講演2 「お食い締め」

愛知学院大学 心身科学部 健康科学科 准教授 牧野日和 先生

【方法】Zoomによるオンライン講演会

【会費】 静岡県言語聴覚士会 会員 無料

非会員 2000円 … 入金方法については、申込時にご案内します。

一部門の受講でも両方受講しても料金は同じです。

【定員】 各講演とも、静岡県言語聴覚士会 会員 120名

非会員 20名

※先着順とし、定員になり次第、締め切りとさせて頂きます。

【申し込み締め切り】 6月7日

【申し込み】

URL <https://forms.gle/wy7F3aVqbxmHxVZ47> あるいは QR コード



より Google フォームの申し込みシートに必要事項を記入し、送信して下さい。

【問い合わせ】 ご不明な点・講演会3日前までにミーティングIDや講義資料が到着しない場合は、下記までご連絡頂きますよう、お願いします。

講演会申込専用アドレス shizuoka_st_20210613@gmail.com

☆ 本研修会は、日本言語聴覚士協会の生涯学習プログラムのポイント取得対象研修として承認予定です。
受講の可否・非会員の入金方法・Zoom ミーティングID や配布資料の受け取り方法などは、別途メールにてご連絡致します。

講師紹介

小渕 千絵 先生

立教大学文学部心理学科卒業、東京学芸大学大学院教育学研究科、筑波大学大学院心身障害学研究科修了、博士（心身障害学）取得。川口市立医療センターリハビリテーション科、埼玉医科大学病院小児科などで言語聴覚士として勤務。国際医療福祉大学言語聴覚学科助手、講師、准教授を経て現職。

聴覚情報処理障害（APD）児・者の評価と支援、聴覚障害児の言語聴覚評価・支援法、高齢者の聴覚認知・心理面について、研究されています。

著書に「APD（聴覚情報処理障害）の理解と支援」（学苑社）、「言語治療ハンドブック」

（医歯薬出版）補聴器・分担執筆、「標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論」（医学書院）聴こえと聴覚機構・分担執筆 などがあります。

講演では、音はきこえてくるが、ことばとしてききとれない…雑音の中では何を言っているのかわからない…聴力が正常とされながら、「ききとり困難」を抱える人たちに関する症状、評価、支援について、お話しいただきます。

牧野 日和 先生

福井医療技術専門学校（現・福井医療短期大学）卒業。愛知学院大学大学院歯学研究科博士課程修了、博士（歯学）（口腔先天異常学）取得。

社会福祉法人びわこ学園 第一びわこ学園で言語聴覚士として勤務後、札幌医療科学専門学校・学校法人同志舎・名古屋医専などで、言語聴覚士育成に携わる。

現在、愛知学院大学心身科学部健康科学科・愛知学院大学大学院心身科学研究科 健康科学専攻准教授。

摂食嚥下障害児者に対する評価および支援法、口腔ケアの効果測定と支援法、脳性麻痺児者に対する評価および支援法の開発等をしていらっしゃいます。また、子どもの成長と発達およびそれらの障害児者への支援に関する研究、家族の心理と支援について研究されています。

著書に、「最期まで口から食べるため1 「むせ込み」「誤嚥性肺炎」を繰り返す 食形態の変更のタイミング」「最期まで口から食べるため2 胃ろうから経口摂取を始める・看取り期を支えるお食い締め支援」（全国高齢者施設看護師会）「人生最期の食支援を問う「お食い締め」死から生まれるもの」（メディカルフレンド社）「加工食品ができる簡単やわらか食 食べる人にも作る人にもやさしいレシピ」（中央法規出版）などがあります。

講演では、人生の最期に何かを食べようという「お食い締め」支援を行う上で、最期まで食べるケアが目指すものは何か、看取り期に対象者・家族・スタッフが三位一体となって死をどう迎えるか、高齢者が生きる役割は何か、お話ししていただきます。